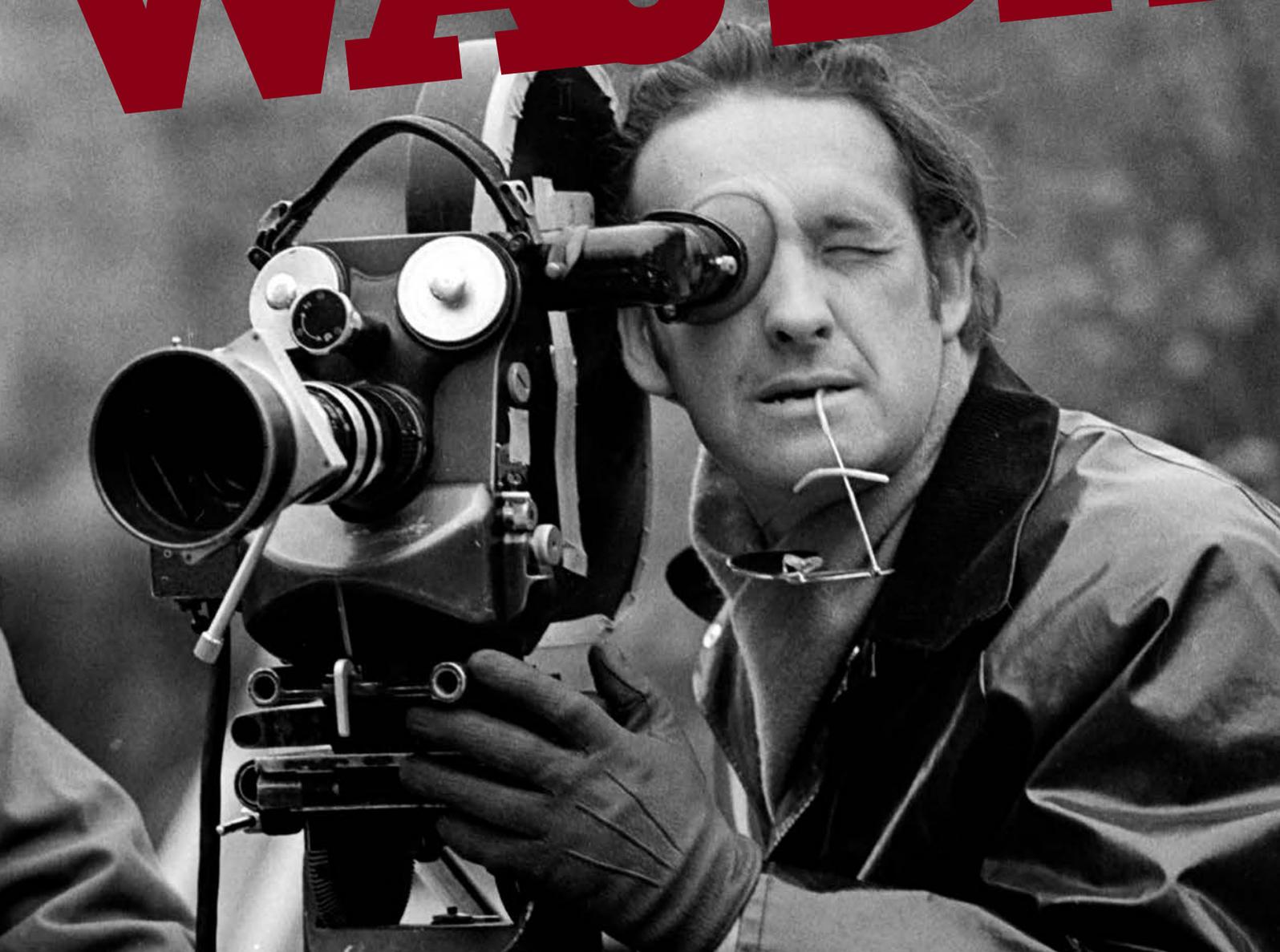


ポーランド映画の巨匠、その全貌を読み解く



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

Andrzej Wajda



展覧会

映画監督 アンジェイ・ワイダ

2024年12月10日[火]—2025年3月23日[日] *月曜日、12月27日(金)—1月5日(日)は休室です。

国立映画アーカイブ展示室(7階)

開室時間:午前11時—午後6時30分(入室は午後6時まで) *1/31、2/28の金曜日は開室時間を午後8時まで延長いたします。(入室は午後7時30分まで)

料金:一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上、高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料

料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。()内は20名以上の団体料金です。*学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものを

ご提示ください。*国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

主催:国立映画アーカイブ、日本美術技術博物館 Manggha、アダム・ミツケヴィチ・インスティテュート

協力:クラクフ国立美術館、ポーランド広報文化センター

国立映画アーカイブホームページ www.nfaj.go.jp/ X(旧Twitter):@NFAJ_PR Facebook:NFAJPR Instagram:nationalfilmarchiveofjapan

写真:『縄取り紙』撮影中のワイダ監督(1969年)



この展覧会はポーランド共和国文化・国家遺産大臣ハンナ・ヴロブレフスカ氏の名誉ある後援のもと開催されます。また文化・国家遺産省の資金提供を受けています。

The exhibition is held under the honorary patronage of the Minister of Culture and National Heritage, Ms. Hanna Wróblewska. Financed by the Ministry of Culture and National Heritage of the Republic of Poland.

「ポーランド派」の若き筆頭監督として『地下水道』(1957年)や『灰とダイヤモンド』(1958年)で世界の映画界に新風を巻き起こし、後には『大理石の男』(1977年)や『鉄の男』(1981年)を発表して当時の社会主義体制にも抗いながら、ポーランドがたどった苛酷な歴史の雄弁な語り手として、またポーランド文学の名作をたびたび翻案して壮大な物語世界を築き上げてきた巨匠監督アンジェイ・ワイダ(1926-2016)。

この展覧会は、ワイダ監督の60年以上の作品歴を通じて生まれた、日本美術技術博物館 Manggha(マンガ)のコレクションを中心とする貴重な資料群からポーランドの専門家が構成したもので、2019年にクラクフ国立美術館で開催された企画の初の外国巡回です。この東京展では、ワイダ監督が築いた日本との深い関係を示す独自の章を加えて、その作家像と作品世界を紹介します。

As a young leading director of the "Polish School," Andrzej Wajda (1926-2016) blew a new wind into the film world with *Kanal* (1957) and *Ashes and Diamonds* (1958), and later released *Man of Marble* (1977) and *Man of Iron* (1981) in opposition to the socialist regime of the time, while also being an eloquent narrator of Poland's history and building a magnificent narrative world by frequently adapting masterpieces of Polish literature.

This exhibition was curated by Polish experts from a valuable collection of materials, mainly from the collection of the Manggha Museum of Japanese Art and Technology, that were born from Wajda's more than 60-year career, and is the first overseas tour of a project that was held at the National Museum in Krakow in 2019. This exhibition in NFAJ will introduce Wajda's images as an artist and the world of his work, with an original chapter showing the deep ties he built with Japan.

展覧会の構成

- zone 1 子どもの神話** 少年ワイダの精神を形作り、映画に表現された19世紀ポーランドへの憧憬
- zone 2 地獄** 悲劇的狀況の中でナチ・ドイツの支配に抵抗したポーランド民衆をワイダは描いた
- zone 3 新しい波** ワイダは「ポーランド派」映画の革新性をさらに推し進めた映画作家だった
- zone 4 革命** ワイダは労働者たちの連帯に一貫して併走し、体制変革の一翼を担った
- zone 5 (不)死** ワイダ映画のもう一つの顔——文芸映画に見られる静けさとノスタルジア
- zone 6 日本** 日本の美術・風土を愛したワイダと、その映画を誠実に受容した日本との関わり

トークイベント

開催日: 2024年12月14日(土)

講師: ラファウ・シスカ氏 (本展覧会キュレーター、ヤギェロン大学視聴覚芸術研究所准教授)

場所: 展示室ロビー (7階)

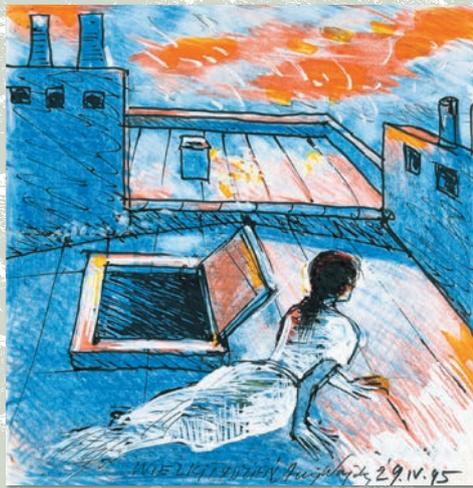
* 詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

関連上映企画

「映画監督 アンジェイ・ワイダ」

2024年12月10日(火)~26日(木)

* 詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。



- 1 『灰とダイヤモンド』(1958年) スビグニェフ・ツィブルスキ着用のジャケットと靴 WR
- 2 『罫取り紙』(1969年) バンフレット MA
- 3 『鉄の男』(1981年) 撮影に使用したカチンコ MA
- 4 『ダントン』(1983年) ポーランド版ポスター LO
デザイン: ヴィエスワフ・ヴァウクスキ
- 5 『聖週間』(1995年) ワイダによるスケッチ (ワルシャワ・ゲッターを見るイレナ) 東日本旅客鉄道労働組合所蔵
- 6 『カチンの森』(2007年) 虐殺シーンで使用された小道具の腕 MA

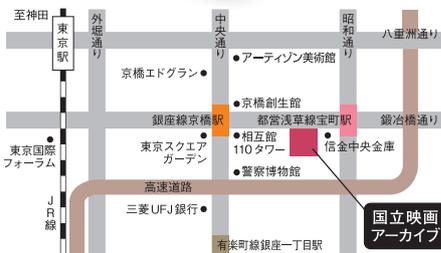
所蔵者 WR: グロツワフ視聴覚技術センター
MA: 日本美術技術博物館 Manggha
LO: ウッチ映画博物館



長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6
お問い合わせ: ハローダイヤル 050-5541-8600
国立映画アーカイブホームページ
www.nfaj.jp



交通

- ▶ 東京外口銀座線京橋駅下車、出口1から昭利通り方向へ徒歩1分
- ▶ 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
- ▶ 東京外口有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
- ▶ JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

